

フィリピンの台風ハイアンによる保健・医療機関の被害調査を行いました (2014/1/16-24)

場所：タクロバン市、パロ市、マニラ市

テーマ：「災害時における保健医療施設の被害状況調査と災害に強い病院の確立に関する提言」

総長裁量経費による第2次調査団として、1月16日（木）から24日（金）にかけてフィリピンでの台風ハイアン（現地名ヨランダ）による病院をはじめとする保健医療機関への被害状況の調査を行いました。地域・都市再生研究部門のケリーン・イ助教に作成していただいたタクロバン市と隣のパロ市における病院、保健・医療関連施設の位置を記した地図をもとに、各施設を訪問し、強風や高潮が職員・患者・地域住民の疾病・メンタルヘルスや病院機能に与えた影響、事前の準備や、支援を受ける側としての備えや外部との通信状況、教育・訓練などについて調査しました。さらに赤十字社の現地拠点や居住地、避難者が居住しているテント村やバラックを訪問し、水・食糧の確保、衛生状況、感染症など疾患が流行していないかについて調査しました。地域の医療供給体制のしくみや特徴も把握することができました。また、マニラではWHO（世界保健機構）、DOH（保健省）、DPWH（国土交通省）など関係者が集まる会議で、東日本大震災で得られた災害時医療管理の教訓と「安全な病院」、病院の事業継続計画(BCP)などについて講演し、今後の災害医療のあり方について意見交換をしました。

今後も継続的な調査研究と、復興にむけての提言をしていきます。



パロにある医学・看護学教育の拠点の再建をめざし奔走しておられるUPM-SHSの学長と



被災した沿岸でバラックをたて、がれきを燃やして調理しているため、消化器・呼吸器疾患の増加が懸念されます

文責：江川新一（災害医学研究部門）